

# 天吊形 据付工事説明書

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。  
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。  
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。  
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。  
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。  
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。 また海外においてはアフターサービスもできません。  
This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

## 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【△警告】**、**【△注意】**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**【△警告】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【△注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。**【○】** 絶対に行わない **【!】** 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書によって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等）をお客様に説明してください。  
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書等をお渡しいただくよう依頼してください。

## △警告

- 据え付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災等の原因になります。
- 小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。（JRA GL-13）  
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れや、火災、感電等の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。  
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。  
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下等により、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。  
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気等を入れない。  
空気などが混入すると冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。  
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A用のものを使用する。  
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。  
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。  
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。  
冷媒配管を取り付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。  
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対にしないでください。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。  
据え付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず落とす。  
点検・修理にあたって、室内ユニット電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になることがあります。

## △注意

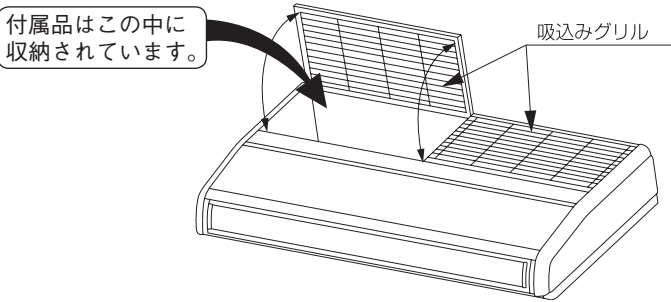
- アース（接地）を確実に行う。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取り付け。  
漏電遮断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。  
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。  
針金や銅線を 사용하면故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。  
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- 腐食性ガス（亜硫酸ガス等）、可燃性ガス（シンナー、ガソリン等）の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。  
熱気、腐食、プラスチック部品の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。  
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯室等、水の掛かる場所では使用しない。  
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災等の原因になることがあります。
- 食品、動植物、精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。  
保存物の品質低下等の原因になることがあります。
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据え付け、使用しない。  
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。  
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所への据え付けは避ける。
  - ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
  - ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
  - ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場等）
  - ・高周波を発生する機械を使用する所
  - ・海浜地区等塩分の多い所
  - ・煙突の煙がかかる所
  - ・カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所
  - ・車両・船舶等移動するものへの設置
  - ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
  - ・積雪の多い所
  - ・標高1000m以上の所性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- 次の場所への室内機の据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）
  - ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
  - ・強度が不十分で振動が発生する所
  - ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
  - ・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
  - ・ドレンの排水がとれない所
  - ・人感センサ搭載の場合は次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
  - ・長時間振動が加わる状態
  - ・静電気や強い電磁波のある場所
  - ・長時間高温、多湿になる場所
  - ・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れ及び損傷を与える恐れのある場所性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。  
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。  
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガ等の原因になることがあります。
- 室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は必ず注意し、室内ユニット内へのスパッタの進入を防止する。  
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れ等の原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくと、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- 冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れないことを確認してください。  
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になることがあります。
- GHP（ガサヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。  
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。  
試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。  
不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露たれ等が発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。  
小動物が侵入し、内部の電気部品に触れると、故障や発火・発火の原因になることがあります。  
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 製品の運搬は充分注意して行う。  
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実に行う。  
梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。
- フィルターをはずしたまま運転しない。  
内部に油・ゴミ等が詰まり、故障の原因になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。  
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。  
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
- エアコンを水洗いしない。  
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。  
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。  
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

## ①据付の前に

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
  - 機種・電源仕様
  - 配管・配線・小物部品
  - 付属品

### 付属品

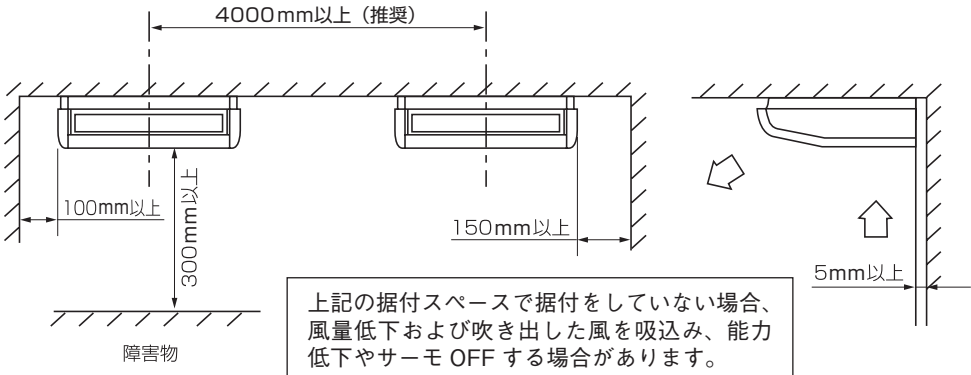
本体吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用					吸込みグリル用
平座金 (M10)	型紙	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	ドレンホース (クランプ付き)	ホース クランプ	固定金具	ねじ	断熱材	ねじ
8 個	1 個	1 個	1 個	4 本	1 個	1 個	1 個	2 個	1 個	4 個
室内ユニット 吊下げ用	室内ユニット 吊込み調整用	ガス管 断熱用	液管 断熱用	パイプカバー 固定用	ドレン配管 接続用	ドレンホース 取付用	ドレンホース 固定用	固定金具 取付用	ドレンホース 断熱用	グリル 固定用



## ②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
  - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
  - ・人感センサ搭載の場合据付高さは4m以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
  - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
  - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
  - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
  - ・侵入外気の影響のない所。・直射日光の当たらない所。
  - ・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。本室内ユニットはJIS露付条件（室内：27℃/78%RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態を運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
  - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
  - ・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
  - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
  - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接、吸込まない所。
  - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- ②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下により、ケガの原因になります。
- ③ワイヤレス機種を2台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。
- ④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離は4m以上を推奨します。

### 室内ユニット据付スペース



上記の据付スペースで据付をしていない場合、風量低下および吹き出した風を吸込み、能力低下やサーモ OFF する場合があります。

## ③据付け前の準備

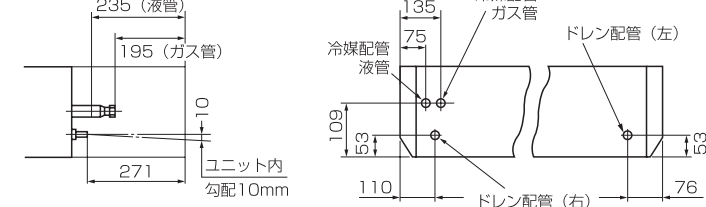
- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
  - システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震プレースを設置してください。
  - 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震プレースを設置してください。
- 吊りボルト・ナット・パネ座金（M10）を4組現地に手配してください。

### 天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

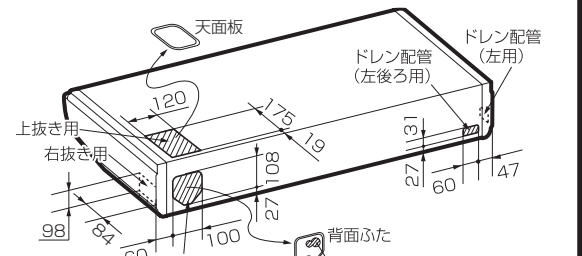
天井開口穴・吊りボルトピッチ				（mm）	
店舗		40～56型	63～80型	112～160型	
ビル空調					
ガスヒートポンプ					
A		1070	1320	1620	
B		1022	1272	1572	



### 冷媒配管位置



### 配管取り出し位置



- ※配管取り出しは3方向（後ろ・右・上）より行えます。
  - ・穴はニッパ等により切り落としてください。
  - ・背面ふたは切り代にしたがって配管取り出し穴を切り抜いてください。
  - ・上取り出しの場合は、天面板を取り外してください。
  - ・右取り出しの場合は、サイドパネル内側の溝に沿って切り抜いてください。
  - ・配管・配線の据付後、埃などが浸入しないよう、隙間をパッキンなどで塞いでください。

室内ユニット内への埃の浸入およびエッジ部での配線損傷防止のため、背面・天面板は、必ず取り付けてください。右取り出しの場合、切り抜き部は、バリ等取り除いてください。

### 室内ユニットの搬入、据付

- 搬入時はできるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- 開梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包み、室内ユニットを傷つけないよう注意してください。
  - ※サイドパネル、吹出ルーバ等、プラスチック部分を持たないでください。
- 開梱後室内ユニットをおく場合は、必ず吸込みグリル側を上にして置いてください。

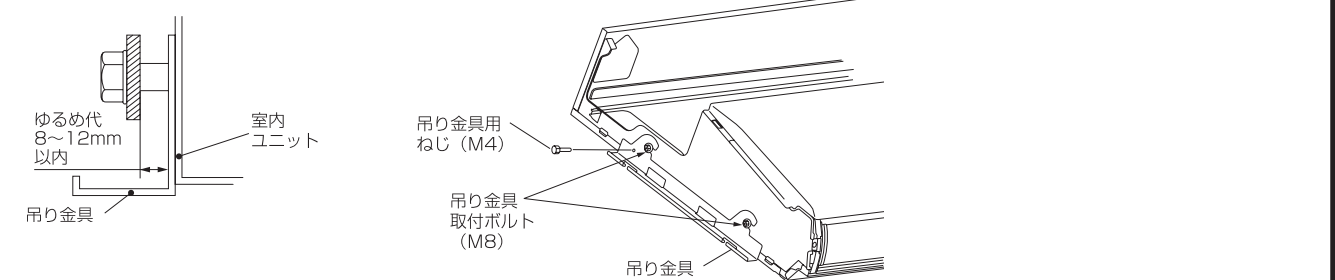


### 吊り込み前の準備

- 1. 吸込みグリルの取り外し  
ストッパーをスライドさせ、ピンを抜いてください。
- 2. サイドパネルの取り外し  
ねじを外し、矢印方向にスライドさせてください。



- 3. 吊り金具の取り外し  
ねじを外し、取付ボルトをゆるめてください。

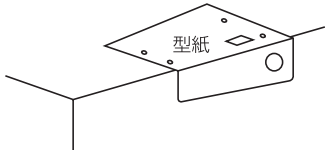




④室内ユニットの据付け

作業手順

1. 吊りボルト位置、配管位置を選定してください。
- (1) 付属の型紙を目安にして、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトと配管用の穴あけを行ってください。
- ※注意：位置決定は、実測により行ってください。
- (2) 位置決定後、型紙は取り外してください。
2. 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3. 吊りボルトは4本使用してください。
4. 吊りボルト長さは下図の寸法を厳守ください。
5. 吊り金具を吊りボルトに固定してください。

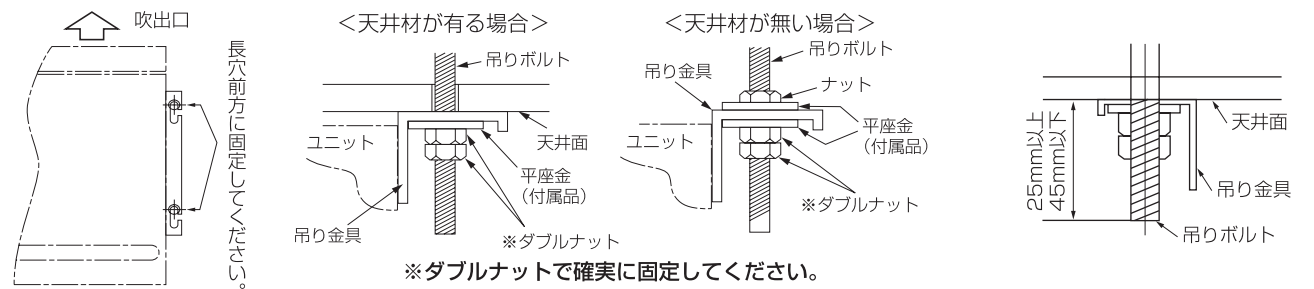
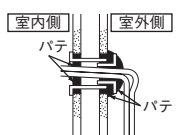


警告

壁穴をパテで完全にシールしてください。  
(ホリリ・昆虫・小動物・高湿度の外気が室内機内に入し、火災の原因になることがあります。)

注意

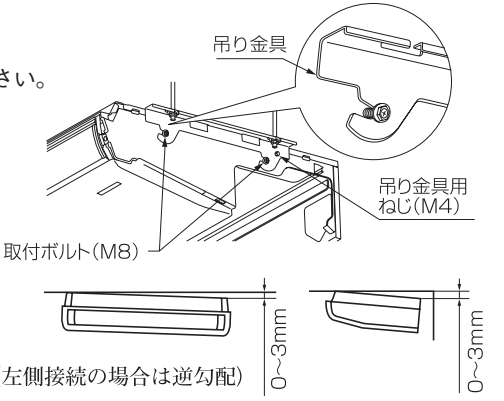
壁穴をパテで完全にシールしてください。  
(水漏れ・露たれし、家財等を濡らす原因になることがあります。)



6. 室内ユニットを金具に据付けてください。(右図参照)
- (1) 吊り金具前方より、室内ユニットをスライドさせ、ボルトを引っかけてください。
- (2) 取付ボルト (M8) を左右4箇所確実に締め付けてください。
- (3) ねじ (M4) を左右2箇所締め付けてください。

△警告：サイドパネルは前から後方へ向け引っかけた後、本体に確実にねじ止めしてください。  
ねじ止めされない場合、本体が落下し、ケガの原因になります。

※ドレン水を流れやすくするために室内ユニットを排水側に下り勾配を設け、据付けてください。  
△注意：逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。



⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの (JIS B 8607 2種適合品) をご使用ください。他のフレアナット (1種) を使用すると冷媒漏れの原因となります。
- 既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの (JIS B 8607 2種適合品) を使用してください。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410A用のフレア加工をしてください。

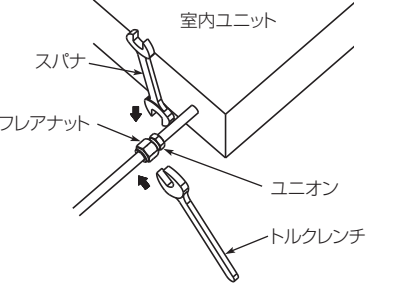
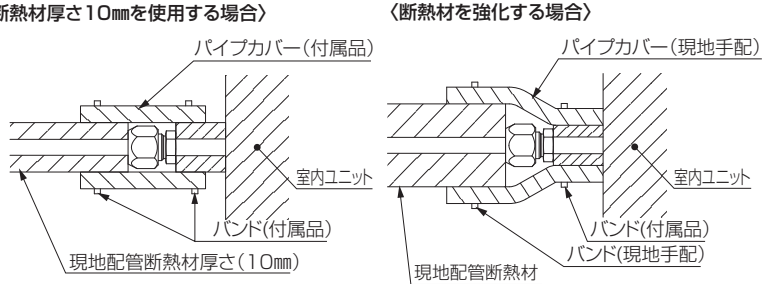
配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N・m
		リジッド (クラッチ式) R32用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.80 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18	
9.52	0.8		12.8 ~ 13.2	34 ~ 42	
12.7	0.8		16.2 ~ 16.6	49 ~ 61	
15.88	1		19.3 ~ 19.7	68 ~ 82	
19.05	1.2		23.6 ~ 24.0	100 ~ 120	

⑤冷媒配管の続き

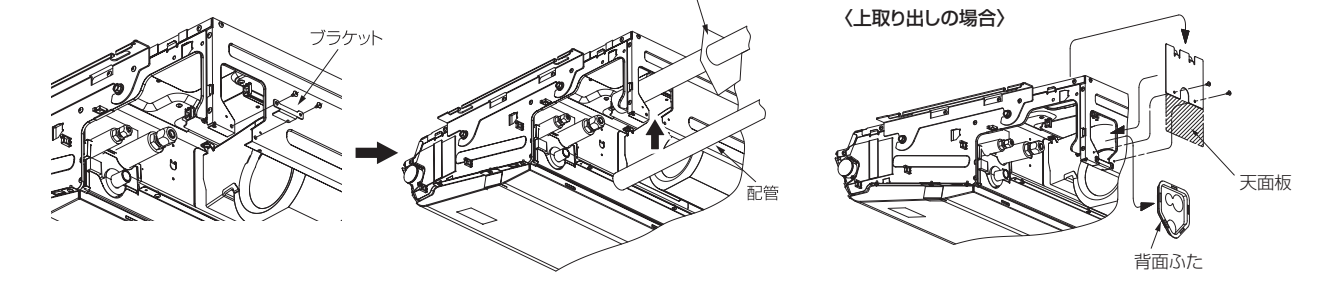
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金無銅管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。  
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とまろう付けする直前までシールしてください。  
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR32用またはR410A用の工具を使用してください。

作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取出してください。  
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。  
(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。  
(内部に圧力がかかっている場合があります。)
2. 液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。  
・後ろ・上取り出しの場合は、配管は⑦の電気配線と一緒にして、付属のふたを通して取り付けてください。  
・埃などが混入しないよう、隙間をパテなどで塞いでください。  
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。  
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、以下のように行ってください。  
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで左表の締付力で締めてください。  
3. 室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締め付けてください。
- ガス側配管・液側配管ともに断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。  
●高湿度雰囲気中使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。  
強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。  
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。  
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。



注意  
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が增加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。  
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。



配管取り出しは、後、右、上の3方向より行えます。  
後ろ配管の場合、ブラケットを取り外すと作業が容易になります。  
※配管作業終了後、ブラケットを元通り取り付けてください。

1. 天面板を取り外してください。  
2. 天面板の斜線部をカットしてください。  
3. 天面板を背面ふたとして取り付けてください。

⑥ドレン配管

- ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。  
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100以上) とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。試運転時に排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

⑥ドレン配管の続き

作業手順

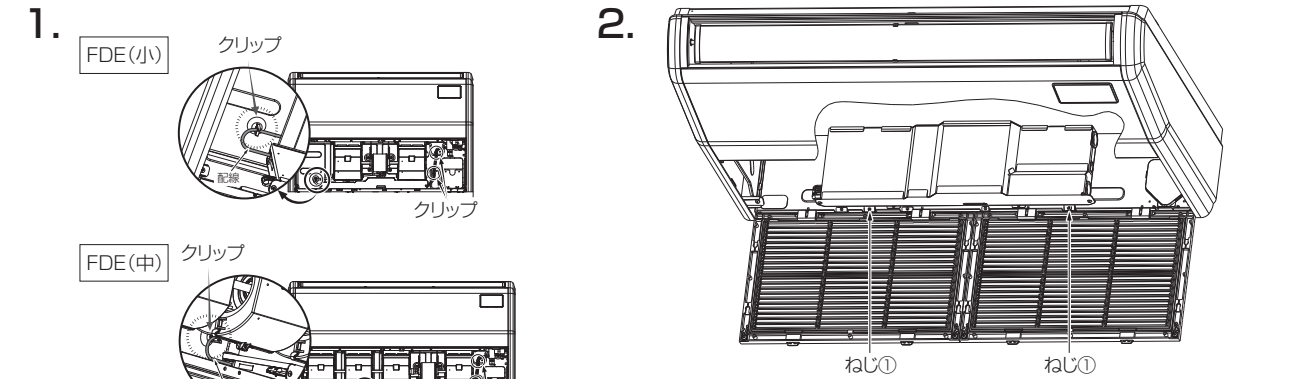
1. 付属のドレンホースを本体ドレンソケットの根元まで差し込み、付属のクランプで確実に締めてください。(接着剤使用不可)  
※ドレン配管を左側に行う場合、本体の左側配管接続口についているゴム栓と断熱材 (筒状) を右側接続口について替えてください。  
△注意：ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。
2. ドレンホースを付属の金具で最下点にて固定してください。  
※ドレンホースはたるまないように固定し、右図のように10mmの勾配をつけてください。  
●電気配線がドレンホースの下に入り込まないようにしてください。  
△注意：ドレンホースは必ず金具で固定してください。  
ドレン水がオーバーフローする恐れがあります。
3. ドレンホースにVP-20 (現地手配) を接続してください。  
(接着剤使用不可)  
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-20を使用してください。
4. ドレン配管は下り勾配 (1/100以上) とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
5. エア抜きは絶対に設けないでください。
6. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
- 断熱ホースクランプは付属の断熱材を使用して断熱してください。  
●高湿度の環境で使用する場合、ドレン配管に結露する恐れがある場合は、ドレン配管に断熱材を追加する等結露に対する配慮をしてください。

ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることと、水漏れのないことを確認してください。  
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

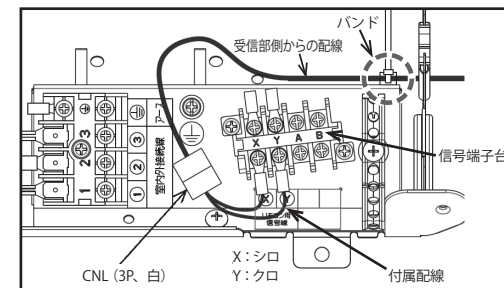
⑦電気配線取出位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種設置工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
1. 配線をクリップから外してください。
2. 制御箱 (ねじ①2本) を取出してください。
3. 制御箱をブラケットの溝に沿ってスライドさせ引き出してください。(A→Bの方向)
4. 制御箱のふた (ねじ②2本) を取出してください。
5. 各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に接続してください。
6. 各配線を電源線クランプで固定してください。
7. 制御箱のふた (ねじ②2本) を取り付けてください。
8. 制御箱をブラケットの溝に沿ってスライドさせ (B→Aの方向)、制御箱を元の位置へ戻してください。
9. 取外した部品を元通りに取付けてください。
- ※1 工場出荷時、ワイヤレスキット (オプション)・人感センサキット (オプション) の受信部用配線が接続されています。  
ワイヤレスキット、人感センサキットの取付方法は、キット付属の据付説明書を確認してください。  
ワイヤードリモコン接続時は外す必要はありません。  
ワイヤード/ワイヤレスを併用する場合はリモコンの親子設定が必要となります。



お願い

スーパリンクアダプタ取付の際は、受診部側からの配線を固定しているバンドを取り外してください。



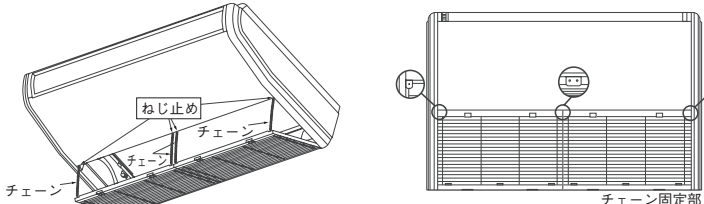
⑦電気配線取出位置および電気配線接続の続き

3. 制御箱の引き出し方法  
※制御箱を引き出す前に配線をクリップから外してください。
4. シングル機の配線接続  
CNLコネクタ (3P, 白) 通信側端子台 アース線 ワイヤレスキット・人感センサキット 受信部用配線 (※1) リモコン線 電源側端子台 電源線クランプ 内外接続線
- 5・6. マルチ機の配線接続  
CNLコネクタ (3P, 白) 通信側端子台 ワイヤレスキット・人感センサキット 受信部用配線 (※1) 信号線 リモコン線 電源線 電源線クランプ
- 7・8. 制御箱の取り付け方法  
※制御箱の形状に合わせて取り付けてください。

⑧吸込みグリルの固定

- 電気配線工事完了後、吸込みグリルを固定してください。

1. 吸込みグリルに固定されているチェーンを、付属のねじで室内ユニット本体に取付け、吸込みグリルを閉じてください。



⑨室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

- 室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	